

# Theme 1 省エネの推進

世界13カ国で、18,740店舗/カ所<sup>※</sup>を展開するイオン。  
日本小売業最大の事業規模となるイオンは、日々の  
事業活動において多くのエネルギーを使用していますが、  
省エネに向けてさまざまなチャレンジを続けています。

※ 2014年度末

イオンは、2020年度に向けた環境目標「イオンのecoプロジェクト」を掲げ、その達成に向けたさまざまな取り組みを行っています。「イオンのecoプロジェクト」は、2011年3月に発生した東日本大震災およびその後の計画停電や電力抑制に対応するために、さまざまな手法で実施した節電の対応を踏まえ2012年9月に策定・公開したものです。かしくエネルギーを使用して省エネを推進する「へらそう作戦」、太陽光発電を中心とした再生可能エネルギーを創電する「つくろう作戦」といった省エネ・創エネを目的とした目標に加え、非常時に店舗がくらしのライフラインとして機能するように防災拠点化する「まもろう作戦」を盛り込んでいます。これは、エネルギー使用の削減だけでなく、東日本大震災の経験を経て、災害など有事の際に店舗でできることを考えてきた結果です。

## イオンのecoプロジェクト

へらそう作戦

エネルギー使用量  
50%削減



LED照明への切り替え

つくろう作戦

再生可能エネルギー  
20万kW



太陽光パネルを設置

まもろう作戦

全国100カ所の  
防災拠点



自家発電設備の設置

### イオンのecoプロジェクト エネルギーを「へらそう」作戦

イオンの店舗では、空調や照明、冷凍・冷蔵ケースなど、多くのエネルギーを使用しています。日本はもとより、アジア各国に広がる店舗網をもつイオンにとって、店舗からのCO<sub>2</sub>排出量削減が、イオン全体の排出量削減に大きな効果をもたらします。そのため、店舗照明のLEDへの切り替えや省エネチェックリストに基づく省エネ運用改善などを積極的に推進し、エネルギー使用量の削減に取り組んでいます。

### イオンのecoプロジェクト エネルギーを「つくろう」作戦

イオンは、2020年までに20万kW<sup>※</sup>の創電能力を備えることを目標としており、店舗の屋根や壁面のスペースに太陽光パネルを設置して創電を行っています。発電した電気は、自家消費により電力使用量の削減につなげているほか、固定価格買取制度を利用して電力会社に売電しています。売電によって得た利益は、電力上昇分の相殺およびBCP対応、環境投資、再生可能エネルギーへ再投資しています。  
※ 20万kWは、一般的な家庭のおよそ45,000世帯の年間電力をまかなう能力に相当します。

## Voice

オールイオンで、「イオンのecoプロジェクト」の目標達成を目指していきます。

私は、「イオンのecoプロジェクト」の計画段階からプロジェクトに携わり、現在は推進担当者として、活動の進捗管理や取り組みの企画・立案などの役割を担っています。店舗における節電・省エネの取り組みは、そのさじ加減が難しく、節電・省エネの意識が強くなってしまつと小売業として快適にお買物をしていただけの店舗環境を提供できなくなってしまいますし、逆にすると節電・省エネの意識が抜けてしまうこともあり、このバランスを取ることが非常に重要です。一方、こうした難しさを抱えるなかで、自分の発案

した計画が成功し、省エネを推進できた時、特にエネルギーを大幅に削減できた時の喜びは非常に大きく、またやりがいを感じます。「へらそう」「まもろう」「つくろう」の各作戦では、2020年度に向けた数値目標を掲げています。イオンがこれまでに蓄積してきたさまざまな知見、メンバーのアイデアを出し合い、オールイオンで達成を目指していきたいと思っています。



イオンリテール株式会社  
総務部施設管理G マネジャー 忌部 守人

### スマートイオン CO<sub>2</sub>排出量の削減とともに、 再生可能エネルギーの創出を積極的に推進

「イオンのecoプロジェクト」を実践する取り組みとして、環境負荷の少ない店舗「スマートイオン」(p.43)の開発を進めています。2012年に開始したこの取り組みでは、従来から進めてきた環境負荷の少ない「店舗づくり」に加えて、エネルギーの効率的な利用や防災対応などに地域と協働で取り組む「まちづくり」や「コミュニティづくり」の視点を取り入れた5つの基準を策定。2013年3月のスマートイオン1号店「イオンモール八幡東」のオープンを皮切りに、2014年度末までに7店舗の「スマートイオン」をオープンしています。



2014年度にオープンした「スマートイオン」店舗

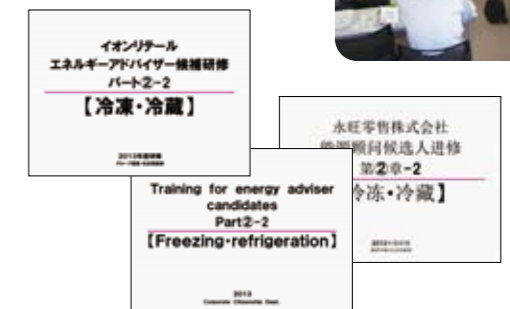


### 店舗での省エネ推進 省エネ人材の育成を推進

イオンは、スマートイオンの展開を通じて、ハード面からの省エネを進める一方、「イオンのecoプロジェクト」を運用する人材の育成に向けて、社内資格「イオン エネルギーアドバイザー制度」を設けています。「エネルギーアドバイザー」は、店舗でのエネルギーの使用状況を把握するとともに、効率的な利用に向けた対策立案や推進を担います。2015年2月末現在、のべ450人がエネルギーアドバイザーに認定されています。全国約340店舗で取り組む「総合スーパーにおけるエネルギーアドバイザー制度推進による省エネ」が高い評価を受け、一般財団法人省エネルギーセンター主催(経済産業省後援)の平成26年度省エネ大賞の省エネ事例部門において、小売業で唯一、省エネ大賞(資源エネルギー庁長官賞)を受賞しました。



エネルギーアドバイザー研修



エネルギーアドバイザーの研修教材  
(日・英・中3カ国語で展開)



## Theme 2 自然資源の保全

毎日店舗に並ぶたくさんの商品。  
水産、農産、林産物など限りある自然資源を  
枯渇させず、将来の世代に残していくために  
持続可能な調達に取り組んでいます。

乱獲による生態系の破壊や地球温暖化がもたらす異常気象による農作物の不作など、自然の恵みである資源は危機的な状況となりつつあります。

イオンが販売・製造する商品は、自然の恩恵によるものであり、また、世界各地の生産者・生産地を経て調達しています。より持続可能性の高い調達の実現に向けて、2011年から調達ガイドライン策定に向けた取り組みを開始し、CSR調達活動についての情報収集や社内の関連部署の担当者で構成する「CSR調達ガイドライン研究会」の実施などを経て、2014年2月、「イオン持続可能な調達原則」を策定・公表しました。また、持続可能な水産物の調達に、より積極的に取り組んでいくために、「イオン水産物調達方針」を定めました。これらの取り組みは、2015年3月に「国連生物多様性の10年委員会(UNDB-J)」の連携事業として認定されました。2015年度は、水産物調達方針の策定に続き、森林資源の調達方針策定にも着手していきます。



国連生物多様性の10年日本委員会ロゴマーク

### イオン持続可能な調達原則

1. 自然資源の違法な取引・採取・漁獲を排除します。
2. 生物多様性保全、自然資源枯渇防止の観点で、イオン基準を設定・運用します。
3. 再生不可能な資源の利用については、最小限に留めます。
4. 農産物や漁業資源の産地、漁獲方法などのトレーサビリティを確立します。
5. 林産物において、保護価値の高い森林の破壊を防止します。

### 水産資源の保全

#### 持続可能な水産物の調達・販売を積極的に推進

イオンは、限りある水産資源を守り、伝統的な魚食文化を未来の子もたちに残していくために、「イオン水産物調達方針」を定め、持続可能な水産物の調達・販売に積極的に取り組んでいます。

#### イオン水産物調達方針

資源枯渇防止と生物多様性保全の観点から、定期的なリスク評価を行います。また、リスク低減のために、実行可能な対策を検討し、持続可能な水産物の調達に努めます。

#### 具体的な取り組み事項

イオンは将来にわたって、絶滅が危惧される水産物から、持続可能な裏付けのある水産物にシフトする施策を常に考え実行しています。

1. 持続可能な商品の販売
2. 違法な取引の排除
3. トレーサビリティの確立
4. 定期的なリスク評価



トップバリュ MSC認証 たら

トップバリュ ASC認証 生アトランティックサーモン

2006年に「MSC認証」商品の取り扱いを開始した後、順次、取扱商品を拡大。2015年3月現在、日本の小売業最多の13種、23品目を販売しています。また、2014年からはASC認証を取得した「トップバリュ 生アトランティックサーモン」販売をアジアで初めて開始しました。2015年3月現在、2種7品目を取り扱っています。(p.49)



2015年6月からは、天然のマグロ資源に依存しない完全養殖マグロの販売を開始しました。(p.50)

トップバリュ グリーンアイ 奄美うまれ本まぐろ

### 林産資源の保全

#### FSC®認証商品・資材の活用

イオンではFSC認証紙を使用したノートなどを2008年から販売しています。(p.50)

また、ミニストップでは、国産FSC認証材を100%使用し、コンビニエンスストアとしては日本で初めて「FSC認証」を取得した店舗を2009年に出店、2015年2月末現在、その店舗数は108店舗となりました。(p.53)



FSC認証紙ノート

#### イオンのタスマニアビーフ

##### 直営牧場で育てる安全・安心な牛肉を食卓へ

1974年、世界有数の大自然に恵まれたオーストラリアのタスマニア島にイオンの直営牧場を開場しました。直営牧場だからこそ牛の育て方や飼料にも徹底的にこだわっています。厳しい検疫によって守られた自然環境のなかで育ったブラックアンガス種の血統牛には、遺伝子組み換え飼料、肉骨粉、抗生物質、成長ホルモン剤を使っていません。この飼育方法の安全性について第三者機関の監査を受け、SQF認証を取得しています。イオンでは、このタスマニアビーフや、それを材料に使ったハンバーグやシチューを販売しています。



SQF認証

### オーガニック商品

#### 日本小売業プライベートブランドで 最大規模の137品目を提供(2015年2月現在)

「トップバリュ グリーンアイ」オーガニックシリーズでは、国内外で有機認証を受けた環境配慮商品を、豊富な品揃えで提供しています。健康志向や食の「安全・安心」への高まりを受け、お客さまからの「取り扱いを増やしてほしい」とのご要望にお応えするために、農林水産省が定めるJAS有機農産物加工食品の「認定輸入業者」資格を活用し、国内外のオーガニック商品の開発、調達を推進しています。また、日本の有機JAS認証以外に、有機JAS制度と同等の認証制度を持つ国\*から有機食品を輸入し、JAS有機商品として販売しています。

\*アメリカ、スイス、オーストラリア、ニュージーランド、アルゼンチン、EU加盟国



「トップバリュ グリーンアイ」オーガニックシリーズ



農林水産大臣が登録した第三者機関に認定された事業者のみが有機JASマークを商品に付けることができます。農業や化学肥料などの化学物質に頼らないで、自然界の力で生産された食品を表しており、農産物、加工食品、飼料および畜産物に付けられています。

## Voice

### 「トップバリュ グリーンアイ」はお客さまの オーガニックライフをサポートします

イオンのブランド「トップバリュ」では、「イオンサステナビリティ基本方針」のもと「地球の健康」「社会の健康」「人の健康」の3つの価値の提供に取り組んでいます。「トップバリュ グリーンアイ」オーガニックシリーズは、農業や化学肥料、添加物の使用を抑え、生態系の保全や持続可能性に配慮した商品です。お客さまそして未来の子もたちの健やかな生活のために、「トップバリュ」は豊富な品揃えとお手頃な価格で、お客さまのオーガニックな暮らしをサポートしていきます。

イオントップバリュ株式会社  
MD戦略本部  
雲丹亀 美知恵



## Theme 3 地域との共生

出店地域の皆さまにイオンの出店を喜んでいただきたい——。  
この想いのもと、お客さまはもとより、地元の商店街や自治体など  
さまざまなステークホルダーの皆さまとのつながりを重視した  
店舗づくりに取り組んでいます。

巨大ショッピングモールの出店は、地元の商店街や小売店  
への影響が大きく、地域経済にとってマイナスと捉えられ  
ることが多く、「黒船来襲」とまで言われたこともありまし  
た。しかしイオンは、既存の地域経済・ネットワークに相対す  
るのではなく、地域の一員として共に歩む道が必ずあると  
信じて、地域とのつながりを重視した店舗づくりを進めて  
います。2014年12月にオープンした「イオンモール岡山」  
もそうしたお店の一つ。店舗を中心にさまざまなつながり  
の輪を拡げ、地域の経済活性化やお買物の利便性向上、地域  
活動の支援や文化振興などに積極的に取り組んでいます。

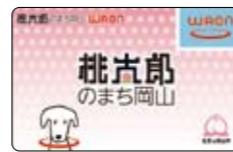
イントが貯まります。また、イオンモール岡山に設置されて  
いる「ピーチステーション」にカードをかざすことで来店ポ  
イントが付与※されます。貯まったポイントは、岡山駅前商店  
街や奉還町商店街などのピーチ加盟店での買物に利用す  
ることができます。

※毎月5日、10日、15日、20日、25日、30日に実施

### 自治体との協働

#### お客さまの声を取り入れた商品づくりを推進

2014年3月、イオンは、岡山市と包括連携協定を締結しまし  
た。これにより、岡山市とイオンは、市政および観光に関する  
情報発信や文化・芸術の振興、地産地消の推進と国内外のイ  
オングループの店舗網を活用した岡山市産品の販売促進な  
どを協働で進めていきます。取り組みの第1弾として、ご当地  
WAON「桃太郎のまち岡山WAON」を発行しました。イオン  
グループをはじめ、全国の加盟店で「桃太郎のまち岡山  
WAON」を使用して支払われた金額  
の一部をイオンが岡山市に寄付し、  
岡山市の人づくり・まちづくりや子育  
て支援にお役立ていただきます。



### 地域商店街との協働

#### おかやま地域共通コミュニティポイント 「ピーチ」を通じた連携

「イオンモール岡山」の開業とともに、地域共通ポイントサー  
ビス「ピーチ」をスタートしました。「ピーチ」は、地域で使わ  
れるお金を地域に還元することを目的としたサービスで、  
ピーチ加盟店での支払いの際、イオンが発行するご当地  
WAONカードなどのピーチ対象カードを利用することでポ



## Voice

### ショッピングモール単体ではなく、地域全体を見据えた利便性向上を目指して

「イオンモール岡山」は、イオンではまだ数少ない都市型のショッピ  
ングモールです。このため、モール内のみならず周辺の商店街や近隣店  
舗を含めてお客さまに回遊いただけるよう、お買物の利便性向上や地域活  
動の支援を考慮した取り組みを進めています。その1つがWAONの導  
入です。現在、店舗近隣の商店街・路面店で、WAONを40店舗、イオン  
クレジットカードを15店舗に導入いただいているほか、地域コミュニ  
ティバスの運賃の支払いにWAONの利用が検討されるなど、地域全  
体でのお客さまの利便性向上につなげています。また、毎月15日のG・G

感謝デーには、岡山市保健所と協働して、健康相談や血圧や体脂肪  
測定ができる健康チェックコーナーを設けるな  
ど、地域の皆さまの健康意識向上に貢献してい  
ます。

イオンリテール株式会社  
中四国カンパニーエリア政策推進チーム  
リーダー  
横山 昭彦



### 地元企業との協業

#### 岡山県内の人気店舗を多数招致

「イオンモール岡山」には、岡山県内各地で事業展開を行う  
代表的企業の人気店が多数  
出店しています。アパレル、  
飲食・食品、雑貨・サービスな  
ど合計65店舗を数え、地元  
企業とともに地域を盛り上  
げています。



〔OKAPITAL〕

### 地元文化との融合

#### 本格的な文化創造と発信の拠点として

岡山のものづくりを体験・体感できる「ハレマチ特区365」や  
岡山ゆかりのアーティストの作品を展示する「haremachi  
Gallery7」を設置するなど、地域の文化やアートを創造・発  
信する役割を担っていきます。また、最大600席の可動式客  
席、最新の音響設備を備えた多目的ホール「おかやま未来  
ホール」を導入。コンサートや展示会などさまざまな用途に  
対応するほか、OHK岡山放送と連動したライブ映像にも対応  
できるなど、岡山をはじめ全国の文化・芸術をこのホールか  
ら発信します。



ハレマチギャラリー7



おかやま未来ホール



ハレマチ特区365

### 地元の行政機関とともに

#### 開業前に合同防災訓練を実施

2014年11月、翌12月の開業に先立ち、岡山市消防局及び  
岡山中央警察署とイオンモール従業員の合同で大規模な防  
災訓練を実施しました。大地震によって店内で火災が発生  
したという想定のもと、避難の経路・手順などの確認を行  
いました。



現場指揮本部



一斉放水

### 地域の社会活動団体の支援

#### サポートが必要な団体と応援したい気持ち をお持ちのお客さまの架け橋として

毎月11日のイオン・デーに実施している「イオン 幸せの黄  
色いレシートキャンペーン」。お客さまが投函した黄色いレ  
シート合計額の1%にあたる品物を団体に寄付しています。  
(p.66)



イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン

# Theme 4 トップバリュの安全・安心

「お客さま第一」という企業姿勢を体現したイオンのブランド「トップバリュ」。

発売開始から40年。これからも、お客さまの声をカタチに、そして、さまざまな社会的責任を果たしていきます。

商品には「おいしさ」「価格」だけでなく、「安全・安心」「品質」といった価値も求められています。さらには、商品の製造過程における法令や国際基準の遵守、働く人たちの人権・労働環境という側面にも社会的関心が高まっています。1974年に発売開始し、2015年2月末現在、年間売上高約7,800億円に達するブランドに成長した「トップバリュ」は、社会からの多様な期待に応えるために、商品を提供するまでの過程でさまざまな責任を果たしています。

トップバリュのブランド体系とこだわり



お客さまの期待を感動に高める、生活品質向上ブランドです



納得品質で、地域いちばんの低価格を目指すブランドです



毎日の暮らしに最上質の体験を提供するブランドです



体へのすこやかさと自然環境へのやさしさに配慮した安全・安心ブランドです

### 「トップバリュ」の5つのこだわり

1. お客さまの声を商品にいかします。
2. 安全と環境に配慮した安心な商品をおとどけます。
3. 必要な情報をわかりやすく表示します。
4. お買い得価格でご提供します。
5. お客さまの満足をお約束します。

### 「トップバリュ」の品質管理

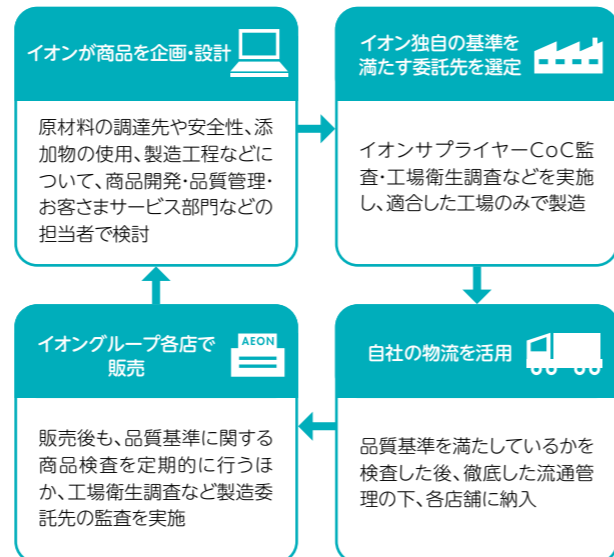
#### さまざまな観点から確かな品質を追求

「トップバリュ」は、「お客さまの普段の生活をより良く」という想いのもと、イオン自ら企画・製造・販売を行っています。製造プロセス管理はもちろん、品質管理においても高水準の「安全・安心」を追求すべく、独立した検査機関である(株)生活品質科学研究所が年間約2万5,000件の自主検査(内、放射性物質検査1万1,272件)を実施。最新の測定機器と精鋭の専門スタッフが安全性・機能性などを検査・分析しています。さらに、生産に関する情報をお客さまに開示し、透明性を高めています。



原材料調査

#### 「トップバリュ」商品がお客さまに届くまで

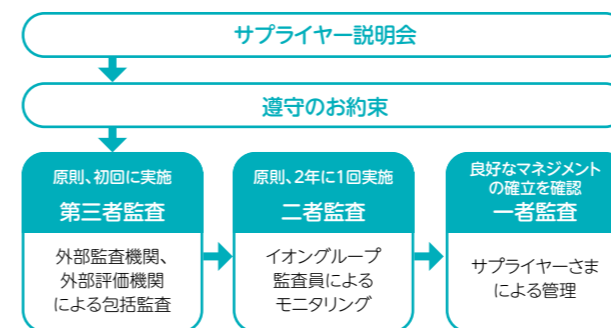


### 持続可能なサプライチェーンの構築

#### 「イオンサプライヤーCoC」のもと、サプライヤーさまとともに監査・改善を実施

近年、人権やコンプライアンス、環境への意識が世界的に高まっていることを背景に、企業には、自社のみならず、サプライチェーンの上流までさかのぼり、生産現場の職場環境や法令遵守、環境対策の状況などを適切に把握し、必要に応じて是正に努めることが求められています。また、お客さまにおいても、適切なサプライチェーンを通じて生み出された商品を選別して購入するという消費スタイルが広がっています。イオンは、トップバリュのサプライチェーンを形成する製造委託先(サプライヤー)さまとの「適切な商取引」の実践、製造現場での「適切な職場環境」の確保といったさまざまな社会的責任を果たしていくために、2003年に「イオンサプライヤーCoC(Code of Conduct 取引行動規範)」を策定。国・地域の法令遵守のもとに、人権の尊重、賃金の保証や労働時間、安全・健康な職場環境など、イオンサプライヤーCoC(以下「CoC」)に掲げた13の要求事項の遵守をサプライヤーさまへ要請し、監査および改善の取り組みをサプライヤーさまともに行うことで「持続可能なサプライチェーン」の構築に努めています。

#### 「イオンサプライヤーCoC」認証手続きと監査の流れ



### イオンサプライヤーCoC (取引行動規範) 要求事項

1. 児童労働:違法な児童労働は許されない
2. 強制労働:強制・囚人・拘束労働は許されない
3. 安全衛生および健康:安全で健康な職場を提供すること
4. 結社の自由および団体交渉の権利:従業員を尊重すること
5. 差別:生まれた背景、信条で差別してはならない
6. 懲罰:従業員に過酷な懲罰を課してはならない
7. 労働時間:労働時間に関する法令を遵守
8. 賃金および福利厚生:賃金および福利厚生に関する法令の遵守
9. 経営責任:イオンサプライヤーCoCの遵守宣言をすること
10. 環境:環境汚染・破壊防止に取り組むこと
11. 商取引:地域の商取引に関する法令を遵守すること
12. 認証・監査・モニタリング:イオンサプライヤーCoCの認証・監査・モニタリングを受けること
13. 贈答禁止:イオンとサプライヤーの贈答禁止

### Voice

#### 「トップバリュ」を通じてお客さまや社会の要請に応え続けていきます。

グループ品質保証部は、品質、安全、人権、サステナビリティなどのさまざまな観点から、イオングループが提供する商品・サービスにイオンの基本理念を注ぎ込む役割を果たしています。それらが凝縮した「トップバリュ」は、まさにイオンそのものであると言ってよいでしょう。刻々と変化するお客さまや社会からの要請に耳を傾け、トップバリュを通じてどのように応えて、どのように伝えていくかを日々考え、実行していきます。



イオン株式会社 グループ品質保証部 岸 克樹



## Theme 5 企業理念の浸透

「真のアジアNO.1リテラー」を目指して業容を拡げ続けるイオン。イオンピープル全員が一丸となり、規律ある風土を醸成するために国内はもとより、海外の従業員にも、理念・価値観の共有と深化を図っています。

1969年、「小売業の近代化」という志をともにする3社が合併して誕生した「ジャスコ」。垣根を取り払い融和するための施策を推進し「心と心の合併」を実践したこの姿勢は、今日に至るまで引き継がれています。そして現在、イオンは、グループ従業員数44万人の企業に成長を遂げました。こうした成長の一方で、全ての行動の基本とすべき「イオンの基本理念」、そして創業以来積み重ねてきた価値観・DNAの理解・浸透が大きな課題です。イオンピープル全員が一丸となって団結するために、理念・価値観浸透の機会づくりを積極的に進めています。

### 行動規範研修の実施

全イオンピープルが理念と行動規範を正しく理解し、正しい行動の実践につなげるために

「イオンの基本理念」「イオン行動規範」の推進・浸透は、PDCAサイクルを回し、毎年継続的に改善を図っています。推進・浸透を図るうえで、最も効果的な手段が教育・研修です。経営幹部、推進リーダー、一般従業員、新入社員の階層別に内容を組み立てています。研修内容は、一般論に留まらず、行動規範110番に実際に相談された内容やモニタリング結果をケースメソッドに盛り込むことで、本質的な問題点や課題を考え、どう行動すべきであったのかを皆で議論する構成にしています。

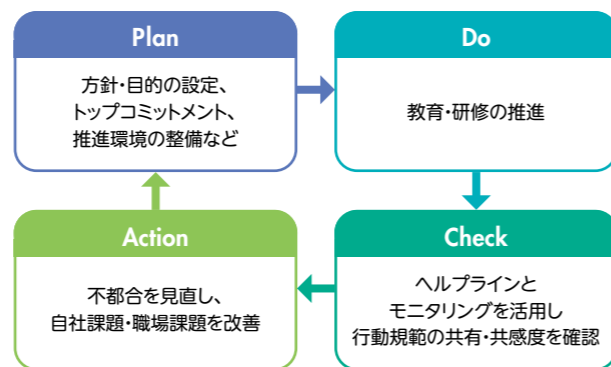


ベトナムでの幹部研修



日本での幹部研修

### PDCAサイクル



### 2015年度の取り組み計画

日本	2015年9月の(株)ダイエーの行動規範導入に続き、未導入企業への動きかけを実施
中国	中国本社 企業倫理チームを中心とした体制整備・運用強化を実施
アセアン	各国・各社の行動規範推進をハンドリングする組織・体制づくりを実施

### 新入社員への理念の伝承

「お客さま第一」という不変の理念を新入社員全員で共有

イオンでは、新入社員を迎える「入社歓迎の集い」において、グループCEOと新入社員が直接対話をする時間を設け、創業以来250年に渡って培ってきた理念や価値感への理解浸透を図っています。



2015年4月1日入社式



### 絵本「ありがとうの約束」を用いた共有 新たにイオングループ入りした従業員や 海外従業員への理念浸透のために

「ありがとう」という感謝の気持ちをもつことの大切さを紹介するこの絵本を通じて、基本理念の本質を直観的に理解していただくことを目指しています。



「ありがとうの約束」

### イオンDNA伝承大学 グループCEO自らがイオンの理念・価値観を講義

創業期から現在まで脈々と受け継がれてきた理念や価値観の伝承を目的に、グループCEOの岡田社長が講義を行う「イオンDNA伝承大学」を2012年から実施しています。



講義の様子

### 「イオン歴史館」設置 250年あまりに渡るイオンの歴史を 現代に伝える歴史館を開設

1758年、初代岡田惣左衛門が三重県四日市で小売商を創業して以来の幾多の歴史を後世に伝えていくために歴史館を開設。従業員はもとより広く一般の皆さまにもご見学いただいています。



イオン歴史館

## Voice

参加者の皆さんが一生懸命に考えてくれる姿に大きなやりがいを感じています。

私は、2015年春に企業倫理チームに異動となり、イオン行動規範の推進・浸透に向けた対策の立案・実行を担っています。また、各社で研修講師を担当する機会も多いのですが、参加者の皆さんが真剣に話を聴いてくれて、自分たちはどう取り組むかを一生懸命に考えてくれる姿を見て大きなやりがいを感じています。

イオン行動規範の推進・浸透にあたっては、PDCAサイクルを確実に回していく事が重要です。PDCAサイクルを回すといっても、現実的には、Actionにまで結びついていないのが実情です。そのため企業倫理チームでは、PDCAの個々の中身を継続的に精査し、課題を明確にした上で一つ一つ見直しを図っています。

グループの規模が国内外で急速に拡大しているなか、今後は、新たにグループ入りした企業への行動規範新規導入および海外の体制整備・強化に注力していきたいと考えています。



イオン株式会社 企業倫理チーム リーダー 服部 春樹

共に働く仲間とともに、「AEON」のブランド向上に貢献していきたいです。

私は、イオンベトナムのイオンビンズオンキャナリー店において、住居余暇の販売課長を努めています。

2015年7月、行動規範研修に参加しました。この研修を通じて、イオンの基本理念そして行動規範の内容をより深くより広く理解することができました。また同時に、今後もイオンが発展を続ける上でとても重要な役割を果たすものであることを改めて認識しました。

研修で学んだ内容を活かして、これからも日々の仕事において「お客さま第一」を実践し、お客さまの信頼の獲得に努めていきます。また、チームや同僚とイオンの理念・行動規範を積極的に共有し、共に働く仲間とともに「AEON」のブランド向上に貢献していきたいです。



イオンベトナム イオンビンズオンキャナリー店 Hardline Manager Nguyen Thanh Trieu